

<特別セッション>

テーマ： 中国リスクと金融市場

座長 関西大学 高屋 定美

<趣旨>

中国経済の成長が鈍化し、実体経済ならびに金融取引の懸念が高まってきている。この懸念を中国リスクと呼ぶとすれば、このリスクは中国のみならず、わが国を含むアジアや欧米にも拡大している。改革開放以来、めざましい成長を遂げ、経済規模では世界で2番目のスケールを誇るまでになった一方、世界経済でのその影響力は大きく、中国経済が景気減速することにより世界経済全体が鈍化する恐れもある。今回の特別セッションでは、以上のような中国経済の現状をうけ、特に金融市場での中国リスクの影響を3人のパネラーによって報告をしていただく。

第1報告の童適平氏（獨協大学）は中国の銀行が抱える不良債権問題を取り上げ、その発生原因と現状を論じていただく。それにより、今後の不良債権問題の行方を考察していただく。

第2報告の西村陽造氏（立命館大学）は中国で蓄積されたリスクが、国内の金融危機に発展する可能性は高くはないと論じる一方、金融面と実態経済面における調整圧力を生み出すと主張される。その圧力がアジアを中心に波及し、各国のリスク回避度に影響を与え、金融面の波及経路の重要性を論じている。

第3報告の李立栄氏（野村資本市場研究所）は、銀行以外の金融仲介取引であるオルタナティブファイナンスのリスクに焦点をあてている。中国ではこのオルタナティブファイナンスが急速に拡大しており、とくにオンラインP2Pレンディングが広がっているが、様々な不正や制度の不備があり、リスクが高まっている。報告ではその現状と展望を論じていただく予定である。

以上のように、中国金融市場でのリスクの現状と、その拡大の可能性をそれぞれのパネラーに分析していただき、短時間ではあるものの討論者を交えたディスカッションを行う予定である。